



ゆづりは

堺市立図書館だより

第1巻 第2号 (通巻 2号)
 発行日 平成19年3月10日
 編集・発行 堺市立中央図書館
 〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1
 電話 072(244)3811
 Fax 072(244)3321
 URL <http://www.lib-sakai.jp/>

堺図書館サポーター倶楽部を ご存知ですか？



堺市の図書館では、「堺図書館サポーター倶楽部」のみなさんが図書館ボランティアとして活動しておられます。

講演会や本のリサイクルフェアといったイベントで、準備や受付を担当していただいたり、市民の皆様からの寄贈本の装備作業や、閲覧室の本棚の整理など、図書館の日常業務のお手伝いもしていただいています。

今年度も、リサイクルフェアなど様々なイベントにご協力いただきました。



堺図書館サポーター倶楽部に参加するには

サポーターの活動を始めるために、「図書館サポーター養成講座」を受講していただいております。図書館の書庫見学、図書館の資料として使うためのブックコートの方法など、この講座でしか体験できないメニューが盛りだくさんです。養成講座は、年に一回程度行っています。来年度の開催予定については広報さかいに掲載いたしますので、是非ご参加ください。

目次

堺図書館サポーター倶楽部
 ご存知ですか? … 1
 わたしのとっておきの一冊… 2
 よんでみてみて! … 2
 おはなし会に来てみませんか … 3
 堺の人物
 「与謝野晶子の生まれた駿河屋」 … 3
 資料紹介～
 「豚と薔薇」「エンデュミリオン・スプリング」 … 4
 堺市立図書館電話番号一覧 … 4

ゆづりは

とは・・・

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人、河井醉茗氏の歌碑があります。

「年ごとにゆづりゆづりて譲り葉の ゆづりしあとにまた新しく」

この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だよりに「ゆづりは」と名づけました。

(河井醉茗氏については、「ゆづりは」第1号にご紹介しています。)



(次のページにつづく)

北図書館で主に活動をしていらっしゃる皆さんにお話をうかがいました。

・活動歴5年(60代男性)

「健康で充実した日々を送れるのも、このボランティア活動のお陰と感謝しています。今後も身体の続くかぎり、頑張りたいと思っています」

・活動歴3年(60代女性)

「館内で本を探している人に、どこにあるかを聞かれてお教えすることがあるが、さがしている本があった時、感謝され、うれしくなる。サポーターとして人のために役立っていることを思うとやりがいがある」

・活動歴4年(60代男性)

「図書館で時に利用者の方に『こういう本はどこにありますか』と聞かれることがありますが、スムーズに対応できたときはやりがいを感じます。又、東図書館オープン時の準備作業などいい思い出です。これからも長く続けていきたいと思えます。」

・活動歴3ヶ月(50代女性)

「職員さんや先輩サポーターさんに教えていただきながら週2回楽しく通っています。今まで読みたい本や調べたいことがあればすぐに本屋さんに出かけ、本を買っていたのですが、『必要な本があればまず図書館へ』が私のモットーになりました。」

・活動歴1年(50代女性)

「もう少し図書館のことを知り、利用者の立場で何かの形で利用者の方と図書館という施設をつなぐ潤滑油のような活動になれば、と思っています。」

北図書館以外の図書館でも、サポーター倶楽部のみなさんは活躍しています。お仲間になりませんか？

よんでみてみて！



美原図書館「ティーンズエリア」は10代の人向けの本を集めたコーナーです。投稿箱に寄せられたおすすめ本情報やイラストをご紹介します。

♡『ポケロリ』が面白いです。特に「Q」の「～キュ」っていう口癖がいいです！

(ペンネーム 桜桃)

♡『ルーンの子供たち』がおすすめです。オンラインゲームのテイルズウィーバーの原作なんですが、小説だけでも十分楽しめます。是非読んでみてください。

(ペンネーム ひな 14歳)

わたしの“とっておきの一冊”

～その1

平成19年1月に募集した「わたしのとっておきの一冊」。たくさんのご応募、ありがとうございました。一度でご紹介しきれないので、今号では、人生の先輩方の「とっておき」をご紹介します。多くの皆さんにご応募いただいていますので、次号以降にも掲載させていただきます。

「君に読む物語」ニコラス・スパークス

最先端の現代医学を超えた人間の心の素晴らしさを感じました。(70代・男性)

「灰色のピーターパン 池袋ウエストゲートパーク」

石田衣良

まことのキャラがいい。(60代・男性)

「あの戦争は何だったのか」保阪正康 新潮社

敗戦60年、いまだ戦争についての総決算ができない今日、日本人にあの戦争についての意義を考えさせる意味では大きい。(70代・男性)

「貝原益軒『楽訓(らくくん)』を読む」無能唄元

くよくよせずに人生を楽しく気楽に生きる、心を豊かにする考え方、なまけるわけでもなく楽観的に生きることを学びました。(60代・女性)

「流れる星は生きている」藤原てい

姉が満州にいたから(60代・男性)

「黒い兄弟」リザ・テツナー

子ども達が「えんとつ掃除のどれい」としてイタリアに売られていくのであるが、勇気と友情で、最後は奥さんを連れて家に帰るラストシーンは涙を誘いました。(60代・男性)

「補陀落幻影」東野光生

これ程の友情があるのかと思う。

(60代・男性)

「静かな大地」池澤夏樹

人権と人格を認められないアイヌに対して平等に人間性を発揮した日本人の物語。豊かな人間性に心を打たれました。(70代・男性)



駿河屋(『住吉・堺名所豪商案内記』より)

「おはなし会」に来てみませんか

♡ 堺市の図書館では、定期的に「おはなし会」を開催しています。

♡ おはなし会では、子どもと読書をむすびつけることを目的として、おはなし（ストーリーテリング）、絵本の読み聞かせなどをおこなっています。30分間、静かにおはなしを聞ける方ならどなたでもどうぞ。この機会にぜひおはなしの魅力を知ってください。

♡ 赤ちゃんや、乳幼児のために、赤ちゃん絵本の読み聞かせや、手遊びなどをおこなっている館もあります。まだじっとしてられない赤ちゃんとのご参加はこちらへ。

♡ 大人向けのおはなし会や、絵本の読み聞かせの会、紙芝居の会などをおこなっているところもあります。

♡ 各館のおはなし会では、おはなしボランティア、読み聞かせボランティアの皆さんにご協力いただいています。

堺の人物 「与謝野晶子の生まれた駿河屋」

前号で紹介した河井醉茗の詩に「堺へ帰ろう」という作品があります。

「晶子さん あなたは堺へ帰りたいと思いませんか」
 「いいえ よく出てきたと思ひます」
 堺は古い街だ 古い街から 新しい人が生れた

これは、与謝野晶子とふるさとである堺との関係を同郷の醉茗が表現した興味深い一節です。

晶子は明治11年(1878)、堺の甲斐町(かいのちょう)の駿河屋という菓子商の家に生まれました。図書館が所蔵する郷土資料に明治16年発行の『住吉・堺名所豪商案内記』があり、そのなかに駿河屋も絵入りで紹介されています。

これを見ると、店の屋根の上に洋風の大きな時計台があり、道をはさんで出店があつて「唐糸糸系(からいと・かせいと)」といった輸入商品を扱っていたことがわかります。近年になって単行本化された晶子の『私の生ひ立ち』(刊行社)からももうかがえるように、彼女の父、鳳宗七は非常にハイカラで、文学好きな人でした。

晶子は、第一歌集『みだれ髪』で「二十とせの我世の幸はうすかりきせめて今見る夢やすかれな」と、堺時代の自分を幸せではなかったとうたっていますが、彼女の子どもの回想によると、晶子は毎晩のように枕もとで自分の幼少の頃から娘時代の楽しかった思い出を話して聞かせたといひます。

「古い街から新しい人が生まれた」背景には、彼女の恵まれた幼少期の環境があつたといえるのではないのでしょうか。

(左ページの写真) 駿河屋(『住吉・堺名所豪商案内記』より)

各館の定期的なおはなし会 時間等が変更になる場合があります。ご確認の上おでかけください。

中央図書館	毎週土曜日午後3時～3時30分
堺市駅前分館	第2・4土曜日午前11時～11時15分
中図書館	第2・4土曜日 午後3時～3時30分
東百舌鳥分館	第1・3土曜日 午後3時～3時30分
東図書館	第2・4土曜日 午後3時～3時30分
初芝分館	第1・3水曜日 午後3時～3時30分
西図書館	毎週土曜日午後2時～2時30分
南図書館	毎週土曜日 午後3時～3時30分
梅分館	第2・4土曜日 午後3時30分～4時
美木多分館	第1・3土曜日 午後2時～2時30分
北図書館	毎週土曜日 午後3時～3時30分
美原図書館	第4土曜日 午後3時～3時30分



堺市駅前分館でのおはなし会のようす

絵本の読み聞かせなど 内容、対象年齢などは各館にお問い合わせ下さい。

中図書館「えほんのじかん」	第1・3土曜日 午前11時～11時30分、 午後3時～3時30分
東百舌鳥分館「えほんのじかん」	第2土曜日 午前11時～11時30分
東図書館「おはなしの広場」	第3水曜日 午後3時～3時30分
南図書館「ファーストブックの会」	第2水曜日 午前10時30分～11時
美原図書館「みんな集まれ！えほんタイム」	月2回水曜日 午後3時～3時30分
美原図書館「絵本・紙芝居・パネルシアター」	第2土曜日 午後3時～3時30分
美原図書館「おとなも楽しめるおはなし会」	第3土曜日 午後3時～3時30分





書庫に眠るこの一冊 『^{ぶた}豚と^{ばら}薔薇』

昭和の国民作家、戦後と限れば松本清張と司馬遼太郎、二人の名前が挙がるのにまず異論はないでしょう。当然の事ながら、お二人とも大部な全集が刊行されています。

ところが、清張全集の方はかなり収録されていない作品があり、『黄色い風土』や『蒼い描点』など相当数の長編作品も漏れています。先日は双葉文庫から未文庫化作品集なども刊行されており、その膨大な作品量がうかがえます。対して遼太郎全集の方は、小説に限れば大部分が収録されており、未収録だった同人誌時代の短編群も文庫化された事は、ファンならよくご存知かとおもいます。

その司馬遼太郎に、全集未収録のみならず、文庫化もされていない長編小説があります。わが図書館の書庫に眠るその本のタイトルは『豚と薔薇』。なんと司馬遼太郎唯一(?)の推理小説なのです。ご存知でしたか。(s)

司馬遼太郎の全集

- 「司馬遼太郎全集」全68巻 文藝春秋
- 「司馬遼太郎全講演」全3巻 朝日新聞社
- 「司馬遼太郎が考えたこと」全15巻 新潮社
- 「司馬遼太郎対話選集」全5巻 文藝春秋

松本清張の全集

- 「松本清張全集」全66巻 文藝春秋
- 「松本清張傑作総集」全2巻 新潮社
- 「松本清張小説セレクション」全36巻
中央公論社
- 「松本清張初文庫化作品集」全4巻 双葉社

『エンデュミオン・スプリング』

マシュー・スケルトン / 著 新潮社

<ハリー・ポッター・シリーズ>が爆発の人気を獲得して以来、欧米(だけではありませんが)の出版界では、ファンタジー小説が一躍脚光を浴びることになり、この分野の本が市場に溢れるようになりました。本書『エンデュミオン・スプリング』もそのお仲間、と言ってしまうと、なんだか「柳の下の二匹目のドジョウ」みたいで、身も蓋もありませんが・・・

英国で出版されたのが2006年。そうです、ほとんど本国と同時に日本でも翻訳出版されたというのが、本書への関心の大きさを物語っています。世界14か国語に訳されることが決まっています、はや映画化権も獲得されたとのこと。

15世紀、ドイツのマインツと、現代の英国、オックスフォードを往きつ戻りつしながら、物語は進んでいきます。活版印刷術の発明者、グーテンベルクの弟子が所有していたとされる謎の本。オックスフォード大学の図書館に出入りしているうちに、いつしかその本に導かれて、『最後の書』の在りかへと近づいてゆく主人公。

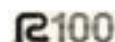
帯に書かれた「全世界の<本と活字と図書館>で育った人たちへ」という謳い文句どおり、本という物、図書館という場所に寄せる著者の愛着がそれとなく伝わってくるところが、大きな魅力になっています。

日本では一般向けの体裁で出ていますが、主人公は12歳の少年で、本国ではヤングアダルト小説として出版されているので、中高生の人にもお勧めです。昨今の話題作らしく、作品のホームページ(英語ですが)も立ち上がっています。全世界的に盛り上がりたい人はこちらもどうぞ(笑)。(m)

<http://www.randomhouse.com/teens/endymion/>

堺市立図書館電話番号一覧

音声応答サービス	280-0415	西図書館	271-2032
中央図書館	244-3811	南図書館	294-0123
くすのき号	244-3811	榎分館	296-0025
堺市駅前分館	222-0140	美木多分館	296-2111
中図書館	270-8140	北図書館	258-6850
東百舌鳥分館	234-9600	美原図書館	369-1166
東図書館	235-1345	人権ふれあいセンター図書ホール	245-2534
初芝分館	286-0071	青少年センター図書室	229-5120



100%再生紙を使用しています。

行政資料番号

1-K3-06-0243